

海外渡航者に対する地域別の予防の推奨

地域別、海外渡航者の事前予防の推奨		IHR	定期接種に準じたワクチン				トラベラーズワクチン					国内未承認ワクチン		予防内服		
地域	渡航中の感染リスク	国の数	黄熱	ジフテリア・百日咳・破傷風 (DPT)	麻疹・風疹・おたふく風邪 (MR/MMR/Mumps)	水痘	インフルエンザ	A型肝炎	B型肝炎	ポリオ	狂犬病	日本脳炎	髄膜炎菌	腸チフス	ダニ媒介脳炎	マラリア予防内服
オーストラリア・ニュージーランド	低	6		ジフテリア・百日咳・破傷風については、1968年以降にはDPTワクチンを用いた定期接種が実施されているが、世界的に広く感染のリスクを認めるため、渡航前の予防接種を検討する際には、原則、全ての渡航者において、追加接種が推奨されるワクチンである。	麻しん、風しん、流行性耳下腺炎、水痘については感染力が強く、感染した場合には重症化する危険性があることや、社会全体の集団免疫を高めることで先天性疾患等の原因となりうる妊婦への感染や弱毒生ワクチンを接種することができない免疫不全者への感染等を防ぐため、広く接種が望ましいワクチンであることから、渡航前の予防接種を検討する際に、原則、全ての渡航者に接種が推奨されるワクチンである。	国内では、65歳以上の高齢者及び60～64歳の基礎疾患があるハイリスク者に定期接種(積極的勧奨のないB類疾病)として毎年広く接種される。日本を含む北半球では冬季、南半球では夏季、熱帯地域では通年流行を認めるため、特に高齢者、生後6月以上の乳児、妊婦、基礎疾患がある等のハイリスク者では渡航前の予防接種の適応を検討することが推奨されるワクチンである。	—	△	—	—	—	—	—	—	—	—
	高						△	△	—	△	△	—	△	—	△	—
カリブ	低	28						△	—	—	△	—	△	—	—	—
	高							○	△	—	△	—	—	○	—	△
中央アメリカ	低	8	●					○	—	—	△	—	—	△	—	△
	高							◎	△	—	△	—	—	○	—	○
中央アジア	低	5						○	△	—	△	—	—	△	—	—
	高							◎	△	—	△	—	—	○	△	△
東アフリカ	低	22	●					○	△	—	△	—	—	△	—	△
	高							◎	△	—	△	—	△	○	—	○
東アジア	低	7						○	△	—	△	△	—	△	—	—
	高							◎	△	—	△	○	—	○	△	△
東ヨーロッパ	低	10						○	△	—	△	—	—	—	△	—
	高							◎	△	—	△	—	—	○	—	—
メラネシア	低	5						○	△	—	—	—	—	△	—	—
	高							◎	△	—	△	△	—	○	—	△
ミクロネシア	低	8						○	△	—	—	—	—	△	—	—
	高							◎	△	—	△	△	—	○	—	—
中央アフリカ	低	9	●					○	△	△	△	—	—	△	—	○
	高							◎	△	○	△	—	△	○	—	◎
北アフリカ	低	7	●					○	△	—	△	—	—	△	—	—
	高							◎	△	—	△	—	△	○	—	△
北アメリカ	低	5						—	—	—	△	—	—	—	—	—
	高							△	—	△	—	—	—	—	—	—
北ヨーロッパ	低	17						△	—	—	△	—	—	—	—	—
	高							△	—	△	—	—	—	—	△	—
ポリネシア	低	10						○	△	—	—	—	—	△	—	—
	高							◎	△	—	△	—	—	○	—	—
南アメリカ	低	16	●					○	—	—	△	—	—	△	—	—
	高							◎	△	—	△	—	—	○	—	△
東南アジア	低	11						○	△	—	△	△	—	△	—	—
	高							◎	△	—	△	○	—	○	—	△
南アフリカ	低	5						○	△	—	△	—	—	△	—	—
	高							◎	△	—	△	—	—	○	—	△
南アジア	低	9						○	△	△	△	△	—	○	—	—
	高							◎	△	○	△	○	—	◎	—	△
南ヨーロッパ	低	16						—	—	—	△	—	—	—	—	—
	高							△	△	—	△	—	—	—	△	—
西アフリカ	低	17	●					○	△	△	△	—	△	△	—	○
	高							◎	△	○	△	—	○	○	—	◎
西アジア	低	18						○	—	△	△	—	—	△	—	—
	高							◎	△	○	△	—	△	○	—	△
西ヨーロッパ	低	9						—	—	—	△	—	—	—	△	—
	高							△	△	—	△	—	—	—	—	△

●黄熱に感染するリスク国が含まれる地域 (詳細はFORTHの黄熱についてを参照のこと)、◎渡航前の予防接種が推奨される、○渡航前の予防接種が多くの場合推奨される、△渡航前の予防接種が推奨されることがある
[リンク1: FORTH 黄熱について](#) [リンク2: 国際連合による地理的地域区分](#)

* 渡航中の感染リスク

高: 期間 (半年以上等の長期)、時期 (流行期)、場所 (田舎)、目的 (現地の家族・友人の訪問、ボランティア等)、健康状態 (基礎疾患あり、妊婦)、特定の職業、年齢 (高齢者、小児) 等から総合的にリスクを判断
 低: 期間 (2週間以内等の短期)、時期 (非流行期)、場所 (都市部)、目的 (パッケージ旅行等)、健康状態 (基礎疾患なし)、年齢等を総合的にリスクを判断する

注釈

一般事項: 事前の予防接種や予防内服の有無に関わらず、海外渡航から帰国後1~2月以内の体調不良時には、国内に流行のない特殊な感染症等に罹患している可能性があり、重症化や感染拡大の予防が重要となるため、早期に適切な医療機関を受診し、海外渡航歴を伝えた上で、必要な検査及び治療を受けることが推奨される。

DPT: 北米等に留学する際には、国内未承認のTdapの追加接種を求められることがある。

ポリオ1: 最新の第17回WHO緊急委員会の推奨(2018年5月)において、アフガニスタン(西アジア)、パキスタン(南アジア)、ナイジェリア(西アフリカ)については流行国、ソマリア()はワクチン株の流行国、コンゴ民主共和国(中央アフリカ)とシリア(西アジア)、カメルーン(中央アフリカ)、中央アフリカ共和国(中央アフリカ)、チャド(中央アフリカ)、ニジェール(西アフリカ)は再流行のリスクありと評価されている

ポリオ2: 1975~1977年生まれの方については、ポリオの定期接種により1型ウイルスに対する十分な免疫を確定できていない方の割合が比較的高いことから、特に流行地域へ渡航する前の予防接種が推奨される

髄膜炎菌: 表にある地域の他、定期接種にキャッチアップする目的で、北米への留学等の際に(特に入寮する際に)、予防接種が推奨される。また、ハッジを目的としたサウジアラビアへの渡航の際には、入国の10日以上以前かつ3年以内の予防接種記録の提示が求められる。

